

中経連

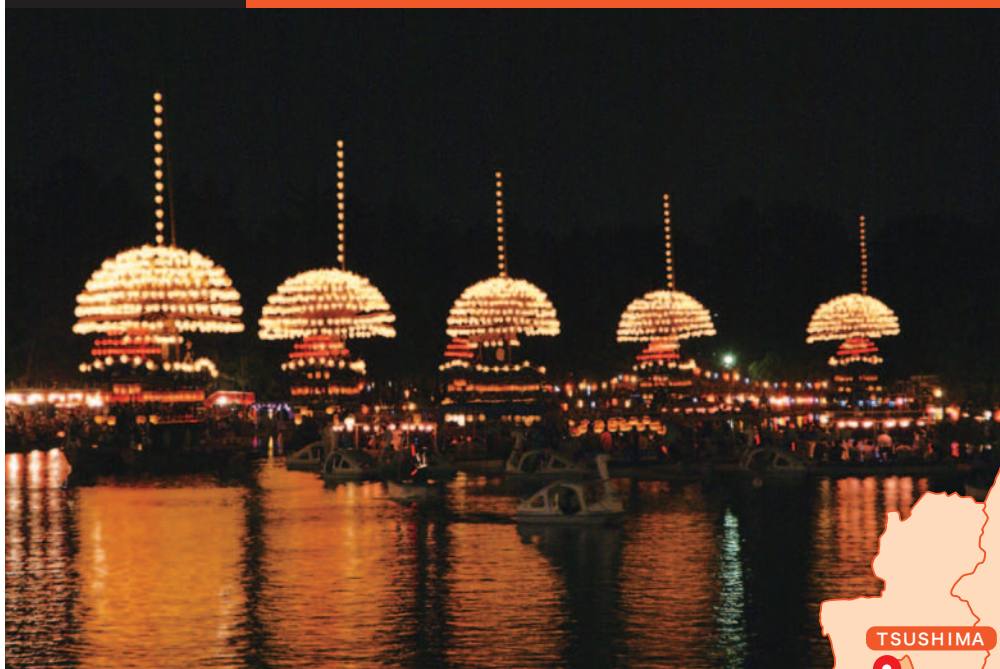
7・8

2022 July・August

Vol.360

未来につなぐ
地域の文化

尾張津島天王祭



宵祭の模様



千字
万感

株式会社日刊工業新聞社
執行役員名古屋支社長
大崎 弘江

特集

中部だより
フードクリエイターの聖地を目指す！
「emCAMPUS」からはじまる
東三河フードバレー構想

- 第11回定時総会
- 名古屋大学サイトビジット
- 三重県との懇談会

CONTENTS

1 千字万感

株主第一主義からの転換

株式会社日刊工業新聞社 執行役員名古屋支社長 大崎 弘江

2 第11回定時総会

4 名古屋大学サイトビジット

5 三重県との懇談会／委員会活動

6 中経連ダイジェスト

8 Garage Nagoya Topics

12 中部だより

フードクリエイターの聖地を目指す！

「emCAMPUS」からはじまる東三河フードバレー構想

15 新入会員紹介 一般社団法人在日フランス商工会議所

16 フライ・セントレア・パートナーズのご案内

17 中部圏の景況感の現状と見通し

20 中部圏主要経済指標



表紙 | 未来につなぐ地域の文化

尾張津島天王祭 (愛知県津島市、写真提供：津島神社)

津島神社の祭礼として600年近くの伝統を誇る「尾張津島天王祭」。日本三大川まつりの一つに数えられ、時代絵巻のような荘厳で華麗な祭と称賛されています。数カ月間にわたりさまざまな行事、儀式、神事が行われますが、7月の第4土曜日の「宵祭」とその翌日に行われる「朝祭」がクライマックスです。宵祭は、提灯をまとった巻藁船が津島笛を奏でながらゆうゆうと天王川を漕ぎ渡ると、揺らめく提灯が川面に映り、その美しさをさらに際立たせます。朝祭は、主役の船「市江車(いちえぐるま)」を先頭に6艘の車楽舟(だんじり



朝祭の模様

ぶね)が能の出し物をかたどった置物を飾り、楽を奏でながら漕ぎ進みます。市江車から10人の鉾持が布鉾を持って水中に飛び込み、川を泳ぎ、神社に向かって走る姿はとても勇壮です。織田信長や豊臣秀吉などの名将にも愛されたとされるこの祭は、2016年に33件の「山・鉾・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。

※2022年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため縮小開催となります。詳しくは津島神社ホームページ(<https://tsushimajinja.or.jp>)をご覧ください。